

## 令和4年度 文教民生常任委員会視察報告会 要点記録

日時：令和4年12月12日（月）10：30～

場所：第1委員会室

出席者：委員長 松本妙子

副委員長 殿本マリ子

委員 堂本啓祐 反甫旭 岩崎雅秋 河合馨 中井良介 今口千代子

### 視察先1：三重県鈴鹿市

日時：令和4年11月10日（木）

調査事項：地域介護予防活動支援事業について

#### 【報告会での発言要旨】

- ☆ 鈴鹿市の支援事業は介護保険の適用を受けられない方でも高齢化により支援を必要とする方々に適切な事業である。地域づくり一括交付金を活用して地域を支えるべきである。  
本市では介護保険課と福祉政策課との事業の振り合いになっているため地域の支え合い活動を進められないでいる。
- ☆ 支援を受けたい人に有償ボランティアが支援する。内容はゴミ出し、電球の交換、除草、付き添い等の日常的な事である。現在の有償ボランティアは定年退職後の元気な高齢者だが、後々のボランティアの確保が課題である。地域介護予防活動支援事業は要支援者の介護予防事業を介護保険制度から外し、市の総合事業として分類し実施している。地域が支え合うことは大事なことだが、介護保険制度が後退していくことを危惧する。
- ☆ 鈴鹿市は一般会計から「地域づくり一括交付金」として総額8,600万円（1地区約300万円×28地区）を交付しているが、本市の地域支援制度とは金額的に差があり、内容や効果について比較検証したい。
- ☆ 地域で高齢者への支援を行う場合、地区市民協議会や小地域ネットワークなどの組織や団体と協力して取り組んでいかないといけない。
- ☆ 「お互いさま」の気持ちで支援を行う有償ボランティアでサービスを実施している。この「助け愛ネット」を利用しやすいのは、利用者や支援者が会員となり、有償だと気軽に頼めるところが良い。「助け愛ネット」のようなシステムを立ち上げるマンパワー（キーマン）が必要とされる。
- ☆ 鈴鹿市は人口196,692人に対して高齢化率は25.7%。岸和田市は人口約190,800人に対して2022年度の高齢化率は約28%と鈴鹿市より高い。高齢化が進む中、現状では地域包括支援センターが十分に対応

できていないのではないかと考える。本市においても地域介護予防活動支援事業を活用した補助事業を実施すべきだ。地域包括支援センターの拡充が喫緊の課題である。

## 視察先2：愛知県豊橋市

日時：令和4年11月11日（金）

調査事項：豊橋市まちなか図書館について

### 【報告会での発言要旨】

- ☆ 図書館のイメージが大きく変わる形式であった。図書館の内部はエントランスを入ると木のぬくもりを感じ、穏やかに本を読むには十分な空間を保っている。本市においても便利でゆったりと使える図書館が必要である。館長の公募制はとても意欲があって良かった。行政が自由な発想の運営を任せていることを感じた。公募により選ばれた若い女性館長だからこそ発想も豊かで読者の立場での従来にない新しい図書館作りを示してくれている。
- ☆ 飲食や会話もよくてカフェもあり、ゆったりとしたスペースで読書ができる工夫である。ゾーンごとに机や本棚が広いスペースに設置され、分野ごとに見やすい書棚があり、欲しい本を見つけやすくなっている。時間をかけずに欲しい本を見つけられる。図書館建設費35億円のうち15億円を国の補助金でまかなったことも参考になった。
- ☆ 図書館整備キックオフ元年となる今年、図書館は幅広い年代の方に利用頂ける施設であり、賑わい作りの拠点施設になりうることを理解できた。しかし、図書館単体での建設は難しく、「まちなか図書館」のように民間施設と複合化した施設での運営は先進事例として参考にしたい。
- ☆ 交通利便性の良い駅前が開館時間が午前9時から午後9時で休館日は第4金曜日のみということもあり、今まであまり利用していなかった若年層や40代前後の現役世代の利用が多く、幅広い世代の方が利用している。
- ☆ 地元企業や大学・商店街などと連携しトークイベントや企画・展示などを実施することにより、“知と交流の創造拠点”として知識や情報の発信・交換の場としての交流機会を提供し、これまでの図書館のイメージとは大きく変わってきている。本市にとっても賑わい創出のために参考にしたい図書館である。
- ☆ 本市においては本館のリニューアルを検討している状況にあるため、これまでの利用者のことにも目を向けないといけない。但し、利用者の向上に繋がる

リニューアルとするためにも時代に合った図書館とすべきだと感じた。

- ☆ 本の貸出・返却・予約なども自動化され、スムーズに行われていた。今後の社会がICT化されていく中、様々な取組を考案していかなければならない。ゾーンごとに机や本棚が広いスペースに設置され、分野ごとに見やすい書棚があり、欲しい本を見つけやすくなっている。来館するにあたり、欲しい本を探すことに時間をかけずに見つけられる。幼児の絵本等がある場所では、その近くに育児書や子育てに関連した本があり、親も一緒に学ぶことができるように細かい配慮がされていた。やはり、館長が若い女性であるからこそ気付くのだと思う。